

論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 学 術 ）	氏名	楊 敬娜
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
中国と日本の歌垣に関する文化人類学的研究			
論文審査担当者			
主 査	教授	高谷	紀夫
審査委員	教授	荒見	泰史
審査委員	教授	丸田	孝志
審査委員	准教授	長坂	格
審査委員	助教	栗田	梨津子
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、古代日本と古代中国、及び現代中国における歌垣に関して、文化人類学的に考察することを主目的としている。日本では、歌垣習俗が途絶えて久しい。また、古代日本の歌垣に関する史料は稀少であり、現代中国西南部の歌垣に関する研究成果はあるが、関連する古代中国の文献研究も含めて、総合的に考察を加えた先行研究はほとんどない。特に恋歌の「歌」に注目する傾向から、歌垣における「踏歌」の舞踊の要素、及び葬送に視野を広げた本格的な考察は未開拓である。本論文は、以上の学術的状況を踏まえ、古代日本と古代中国に関する文献研究の接合、及び現代中国西南部の貴州省、同中南部の湖南省での臨地研究による一次資料の分析を主たる作業として、歌垣研究の射程の拡充と、中国と日本の歌垣研究の相乗的発展に貢献することを到達目標としている。臨地研究は、2016年11月から2017年2月にかけて実施された。</p> <p>本論文は、序論と終章を含む七章で構成される。序論では、主に古代日本の歌垣に関する資料の確認、先行研究の総括、研究方法、臨地研究の概要と本論文の構成について記述されている。一章から五章までは、先行研究の批判的評価から抽出した歌垣研究に関する五つのテーマを掲げ、それぞれ分析を加えている。終章は結論である。</p> <p>第一章「記紀の創世神話から歌垣を見る」では、主に中国の貴州省黔东南州のトン族の「大歌」に関する一次資料と、古代日本の歌垣に関する文献、及び古代中国の文献を照合し、記紀に記された伊邪那美と伊邪那岐の神婚と歌垣に関して考察した。</p> <p>第二章「歌垣と恋愛との関係とその背景」では、中国の貴州省黔南州のミャオ族の「坐花場」、及び湖南省湘西州のミャオ族の「趕辺辺場」に関する一次資料と、古代中国と古代日本両方の文献を参照しながら、主に歌垣と恋・結婚、古代中国と古代日本間の歌垣の関係性について考察した。</p> <p>第三章「歌垣と葬儀との関係」では、主に西南中国の貴州省紫雲県のミャオ族の『亜魯王』という史詩を歌う葬儀、及び湖南省湘西州のトゥチャ族の「打廩」、「跳排」と</p>			

いう葬儀に関する一次資料と、古代中国と古代日本両方の文献を照合し、『令集解』における「遊部」と歌垣に関して議論を加えた。

第四章「歌垣と生業との関係」では、主に歌垣と遊牧・焼畑・稲作などの生業との関係、及び中日間の文化交流の文脈から、歌垣に関する呼称の起源、さらに古代中国と古代日本の歌垣における舞踊の要素の類似性と葬儀との関連性を根拠として、歌垣の原初段階の構図に関する推論を展開した。

第五章「歌垣と遊部の存続と発展について」では、主に中国貴州省のミャオ族と湖南省のトゥチャ族の一次資料から、古代日本の歌垣と遊部の存続と発展について考察を行った。

終章は、上記五章の総括である。

本論文の学術的功績は、第一に、現代中国の歌垣に関する貴重な臨地研究を実践し、同民族誌の充実に貢献した点、第二に、歌垣研究の射程を多角的に拡充した意義深い労作を結実させた点、第三に、臨地研究に加え、中日の膨大な文献を参照しながら、アジアにおける比較民族学・歴史民族学の新たな可能性を開拓し、文化人類学的研究の発展に重要な示唆を与えた点である。

以上、審査の結果、本論文の著者は、博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。